

令和 2 年 6 月 29 日現在

機関番号：37130

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2017～2018

課題番号：17H07288

研究課題名(和文) 地域在住高齢者の活動と社会参加を促す達成動機の段階に基づく支援プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of a support program based on the stage of achievement motive to promote activities and social participation of community-dwelling elderly people

研究代表者

佐野 伸之 (SANO, NOBUYUKI)

福岡国際医療福祉大学・医療学部・講師

研究者番号：40799235

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、地域サロンや老人クラブなど計14か所に対して、計305名(有効回答285名)を対象とした。対象者は平均年齢76.8±6.2歳であり、男性は61名、女性は224名、介護保険の認定を受けている方は30名であった。リハビリテーションサービスの有無に関わらず、地域の高齢者の達成動機を簡便に評価することのできる尺度(以下、SAMG)を開発した。また、SAMGは日常生活での活動量の主観的評価(以下、FAI)との関連性が認められ、SAMG合計得点が48点以下だと日常生活が不活発な者(FAIが15点未満)を検出する可能性が高いことを見出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

介護予防に関して、健康高齢者の健康寿命を延伸させていくために、集団に対しての支援やそのための大規模調査による効果検証が必要となる。そのために、目標に向けられた意欲である達成動機という観点からその状態を評価し、適切な支援方法を検討するための手段として、本研究で開発したSAMGを活用することができる。また、活動量の維持・向上のためには、家事や外出に関する日常生活動作の習慣や役割の意識が関連しており、SAMGと日常生活動作に有意な相関があり、SAMGのカットオフ値を設定することで、日常生活が不活発になる可能性のある者を検出し、早期支援を構築することができる。

研究成果の概要(英文)：In this study, a total of 305 people (valid responses: 285 people) were participated at 14 locations including regional salon groups. The average age of the subjects was 76.8 ± 6.2 years, 61 men, 224 women, and 30 people who were certified as long-term care insurance. We have developed a scale for achievement motive in geriatrics (SAMG) that can easily evaluate the achievement motives of elderly people in the community with or without rehabilitation services. In addition, SAMG was found to be related to the subjective assessment of daily activity (FAI), and when the SAMG total score was 48 points or less, people with inactive daily activities (FAI less than 15 points) were detected.

研究分野：高齢者看護学

キーワード：健康高齢者 意欲 日常生活動作 介護予防

1. 研究開始当初の背景

日本の少子高齢化に伴い、高齢者の介護予防の重要性が高まり、その対策が急務となっている。また、高齢者の活動状況や社会参加の促進に対する支援と、そのための意欲を引き出す取り組みの必要性が提言されている¹⁾。この背景には、高齢者の閉じ込めりやそれによる廃用性の生活不活発病や介護状況の悪化などが報告²⁾され、活動性や意欲の低下が高齢者の死亡率を高め、生きがいを減少させる要因であることを示している。

医療保険並びに介護保険制度でのリハビリテーションでは、支援を受ける本人と必ず目標の共有が行われ、その目標をやり遂げたいという本人の意欲は達成動機と呼ばれる³⁾。佐野らは、リハビリテーションを受ける者を対象に達成動機を評価できる尺度の開発に組み、簡便に測定できる10項目の自記式質問紙を作成した。これまでの研究で、達成動機が高い状態の者ほど主観的QOLや生きがいが高まり、社会参加や役割意識を介した達成動機の間接効果も明らかとなっている^{4,5)}。

しかし、介護予防の観点からでは、リハビリテーションサービスを利用していない健康高齢者の達成動機を評価できる尺度が必要で、その尺度が健康高齢者の社会参加や日々の活動量とどのような関係があるかを明らかにする必要がある。これにより、介護予防や生活支援を要する可能性のある高齢者に対して、達成動機という観点からその状態を評価し、適切な支援方法を検討するための手段になることが期待できる。

2. 研究の目的

本研究では、健康高齢者の達成動機を疫学的に評価することのできる質問紙を開発し、達成動機の状態が家事や外出に関する日常生活動作の状態とどのような関係性にあるのかを明らかにすることであった。

3. 研究の方法

(1) 健康高齢者の達成動機を評価する尺度の開発

地域での介護予防や生活支援に関する事業に携わる専門職(医師、保健師、社会福祉士、介護支援専門員、作業療法士、理学療法士など)の8名(男性6名、女性2名、平均年齢 42.4 ± 7.7 歳)に研究協力を依頼した。リハビリテーションに関する達成動機尺度(以下、SAMR)を基盤とした質問項目から、地域で暮らす高齢者にも応用できる質問表現について計3回検討し、仮尺度の作成を行った。

その後、協力の得られた地域サロンへの参加者233名(男性46名、女性187名、平均年齢 76.6 ± 6.6 歳)を対象として、仮尺度への回答を依頼した。加えて、人的・物的環境の充実感を評価できる包括的環境要因調査票(以下、CEQ)、大切な活動が適切に行えているかを評価できる作業機能障害の種類と評価(以下、CAOD)への回答も依頼した。仮尺度の妥当性(適切に達成動機という概念を捉えられているか)と信頼性(達成動機という概念を測定するために安定して機能しているか)を検証し、高齢者版達成動機尺度(以下、SAMG)を開発した。

(2) 地域在住高齢者の日常生活動作の状態を予測するカットオフ値の設定

対象者は地域サロンへの参加者285名(男性61名、女性224名、平均年齢 76.8 ± 6.2 歳)であった。対象者に対して、SAMGとFrenchay Activities Index(以下、FAI)、基本情報(介護度、同居人数、趣味の数、転倒歴)などへの回答を求め、さらに握力、5m歩行速度、膝伸展筋力の測定を行った。FAIは高齢者の社会参加や日々の活動量の指標として、家事や外出に関わる日常生活動作(IADL)を自己評価する質問紙である。また、FAI合計点は0~45点で、合計点が15点未満だと、その者のIADLは有意に不活発な者であると解釈することができる。

分析では、FAI合計点の15点未満か15点以上かに対して、SAMG合計点でReceiver Operating Characteristic curve(以下、ROC曲線)を算出した。感度と1-特異度を参照し、SAMG合計点のカットオフ値を算出した。さらに、SAMGのカットオフ値で分かれた意欲の高群と低群に対して、対象者の基本情報や身体機能などの差の検定を行い、高群と低群の特徴について検討した。

4. 研究成果

(1) 健康高齢者の達成動機を評価する尺度の開発

分析では、10項目の質問に対して、8名の専門職から高齢者の視点で率直な指摘や修正案を提示され、地域で暮らす高齢者への汎用可能な項目内容の検討が適切に行われた(表1)。

表1 高齢者版達成動機尺度 (SAMG) の項目内容と確認的因子分析の結果

項目内容	推定値
自己研鑽的因子	
自分にとって大切なことをやり遂げるためなら、大変なことでも乗り越えられると思う	0.769
大切なことをやり遂げられるように、自分なりの工夫をすることが好きだ	0.806
自分が納得できるまで努力を続けるべきだと思う	0.815
自分は他の人よりも努力していると思いたい	0.825
同世代の人と同じように幸せに過ごすためには努力を惜しまない	0.877
周りの人からも称賛されるようなことをやり遂げられるように頑張りたい	0.665
方法志向的因子	
自分自身が十分に満足できるような生き方を選びたい	0.804
自分なりのやり方で幸せになることが大事だと思う	0.861
幸せに過ごすために本当に効果があると言われていたことに取り組みたい	0.768
苦労してでも自分に合っていると思う方法を最優先して行いたい	0.824
確認的因子分析 (斜交モデル) CFI = 0.947, TLI = 0.930, RMSEA = 0.081 [90%CI : 0.060, 0.103]	

さらに、開発する尺度の妥当性の検討では、全項目で CEQ や CAOD との相関を認めたことから、依存性妥当性が確認された。因子分析では、自分自身の成長を重視する自己研鑽的因子と、目標達成までの方法や過程を重視する方法志向的因子の2つの想定したモデルで、概ね良好な適合度指標が認められた(表1)。次に、自己研鑽的因子の平均分散抽出(以下、AVE)は0.633、方法志向的因子の AVE は0.670であったため、各因子共に収束的妥当性の基準を満たしていた。弁別的妥当性は因子間相関の値を2乗すると0.679であり、弁別的妥当性は各因子共にわずかに基準を満たしていなかった。信頼性の検討では、各因子の項目と全項目に対して Cronbach の係数と係数を算出し、いずれも0.8以上を良好な基準であった(表2)。

表2 高齢者版達成動機尺度 (SAMG) の妥当性と信頼性の検討結果

	自己研鑽的因子	方法志向的因子	SAMG 合計
収束的妥当性	AVE : 0.632 > 0.5	AVE : 0.670 > 0.5	
弁別的妥当性	AVE : 0.632, 0.670 > 0.679		
係数, 係数	0.908, 0.909	0.888, 0.889	0.933, 0.934

(2) 地域在住高齢者の日常生活動作の状態を予測するカットオフ値の設定

ROC 分析にて、FAI 合計点が15点未満かどうかに対して、SAMG 合計点は AUC で0.78 (95% CI : 0.58-0.99) という診断的に妥当な結果となった。適切なカットオフポイントは SAMG 合計得点の48.49点であり、感度は77.98%、特異度は75.00%であった(図1)。つまり、SAMG 合計得点が48点以下の群と、49点以上の群に分類できると解釈された。

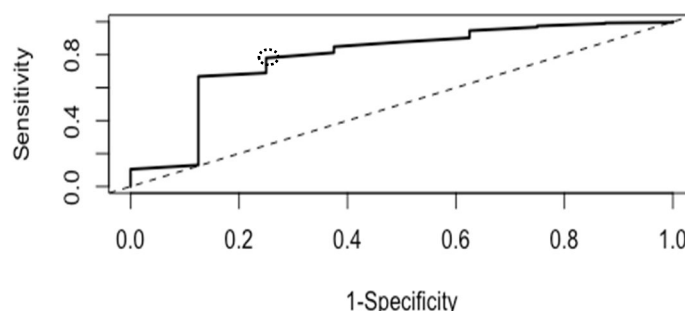


図1 FAI 合計点15点未満者を基準とした SAMG 合計点の ROC 曲線

その群間の比較では、先行研究と同様に意欲の高い群では女性が多く、同居者が少なく、趣味が多いという特徴に有意差が認められた。

引用文献

- 1) 厚生労働省：高齢者の地域におけるリハビリテーションの新たな在り方検討会報告書，平成27年3月。
- 2) 河野あゆみ：在宅障害高齢者における閉じこもり現象の構造に関する質的研究．日本看護科学会誌 19 : 23-30, 1999。
- 3) 佐野伸之，京極真，藪脇健司：リハビリテーション領域における達成動機尺度の開発．総合リハビリテーション 42 : 667-674, 2014。

- 4) 佐野伸之, 京極真, 寺岡睦: 地域在住高齢者の達成動機が社会参加や健康関連 QOL に及ぼす影響. 総合リハビリテーション 43: 765-772, 2015.
- 5) Sano N, Kyougoku M: An analysis of structural relationship among achievement motive on social participation, purpose in life, and role expectations among community dwelling elderly attending day services. PeerJ 4:e1655, 2016.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Sano Nobuyuki, Nakazono Hisato	4. 巻 8
2. 論文標題 Determination of a Cut-Off Point of a Scale for Achievement Motive in Geriatrics That Predicts the Frequency of Undertaking Instrumental Activities of Daily Living in Community-Dwelling Elderly People	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Advances in Aging Research	6. 最初と最後の頁 107 ~ 118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.4236/aar.2019.86008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐野伸之	4. 巻 47
2. 論文標題 研究と報告 高齢者版達成動機尺度 (Scale for Achievement Motive in Geriatrics; SAMG) の開発と妥当性, 信頼性の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 総合リハビリテーション	6. 最初と最後の頁 1221 ~ 1229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.11477/mf.1552201825	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐野裕和, 佐野伸之	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 介護保険領域におけるリハビリテーションに関する達成動機尺度 (SAMR) の臨床有用性 - 訪問作業療法によるクライアントの目標達成を促す支援を通して -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 作業療法 (印刷中)	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Nobuyuki Sano
2. 発表標題 EXAMINATION OF VALIDITY AND RELIABILITY FOR PROTOTYPE SCALE TO ASSESS ACHIEVEMENT MOTIVE IN COMMUNITY-DWELLING HEALTHY OLDER ADULTS
3. 学会等名 the 12th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐野伸之
2. 発表標題 地域在住高齢者の要介護状態に関連する要因 - 地域サロン参加者に対する探索的検討 -
3. 学会等名 第1回九州作業療法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐野伸之
2. 発表標題 地域サロン参加者の達成動機のランクに応じた特徴 - 潜在ランク理論による段階づけと分散分析を用いた検討 -
3. 学会等名 第53回日本作業療法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本健太郎, 佐野伸之
2. 発表標題 リハビリテーションに関する達成動機尺度に基づく自己評定法と面接法を併用した人工股関節全置換術後の患者に対する介入.
3. 学会等名 第53回日本作業療法学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----